県民意見の収集状況について（中間状況）

参考資料２－４

１　県民意見の募集に係る取組状況

(1) ホームページ及びチラシによる県民意見募集の周知

関係団体・市町村等に配布し、県民意見の募集を呼びかけ

(2) バリアフリーフェスタかながわ2018でのアンケート配布（平成30年12月４日）

イベント当日にアンケートを配布するとともに、県コーナーにて説明・回収

(3) 委員からの意見聴取

アンケート回答を依頼。団体によっては直接出向いて意見聴取

２　12月７日までの意見の収集状況

54件の回答があり、各項目の考察は下記のとおり。＜詳細は資料１－２＞

１．現在の状況に係るアンケート

・　以前と比較したバリアフリーに関する印象についてのアンケートであるが、（１）～（３）については地域、社会の状況の双方について、「進んでいる」、「やや進んでいる」という回答の小計が概ね５割～７割（一部７割超）でとなっている。一方（４）については「進んでいる」、「やや進んでいる」という回答の小計が４割～５割程度となっており、他項目と比べるとやや低い状況である。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 地域の状況 | 社会の状況 |
| （１）バリアフリー全般に対する理解 | 進んでいる　　　　11％やや進んでいる　　44％（小計）　　　　　55％※　変化はない　　31％ | 進んでいる　　　　10％やや進んでいる　　56％（小計）　　　　　66％※　変化はない　　24％ |
| （２）施設整備のバリアフリー化 | 進んでいる　　　　17％やや進んでいる　　45％（小計）　　　　　62％※　変化はない　　30％ | 進んでいる　　　　13％やや進んでいる　　62％（小計）　　　　　75％※　変化はない　　17％ |
| （３）障がい者、高齢者等の外出しやすさ | 進んでいる　　　　19％やや進んでいる　　46％（小計）　　　　　65％※　変化はない　　26％ | 進んでいる　　　　15％やや進んでいる　　48％（小計）　　　　　63％※　変化はない　　29％ |
| （４）心のバリアフリー（※） | 進んでいる　　　　 6％やや進んでいる　　37％（小計）　　　　　43％※　変化はない　　45％ | 進んでいる　　　　 4％やや進んでいる　　48％（小計）　　　　　52％※　変化はない　　36％ |

（※）様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うこと

２．社会状況の変化や新たな取組みに関するアンケート

・　提案書作成時以降の事柄についてのアンケートだが、「声かけ・サポート」運動については８割以上の回答者が言葉の意味を知っていたが、そのほかの単語については５割以上の回答者が言葉の意味を知らないという結果であった。しかしながら、どの言葉についても今後の進捗については９割以上の回答者が「積極的に進めたほうがよい」と考えており、また、言葉の周知が必要であるという意見が多く寄せられた。

・　「合理的配慮」については、「合理的」の考え方を整理、周知する必要があるという意見も挙がった。

・　「障がいの社会モデル」については、言葉自体の意味がわかりにくいとの意見が目立った。

・　「インクルーシブ教育」について、多くの選択肢を与える教育法を支持する意見も寄せられた。

・　「声かけ・サポート」運動については、声を掛けられる側についての意見（怒らないでほしい等）も寄せられた。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | （１）言葉の意味 | （２）今後の推進について |
| 問２－１合理的配慮 | 知っていた　　43％知らなかった　57％ | 積極的に進めた方がよい　98％現状で十分である　　　　２％ |
| 問２－２障がいの社会モデル | 知っていた　　24％知らなかった　76％ | 積極的に進めた方がよい　91％現状で十分である　　　　２％その他　　　　　　　　　７％ |
| 問２－３インクルーシブ教育 | 知っていた　　30％知らなかった　70％ | 積極的に進めた方がよい　91％現状で十分である　　　　５％その他　　　　　　　　　５％ |
| 問２－４「声かけ・サポート」運動 | 知っていた　　80％知らなかった　20％ | 積極的に進めた方がよい　93％現状で十分である　　　　５％その他　　　　　　　　　２％ |

３．現在の進捗状況と今後の取組みに関するアンケート（提案書の進捗状況について）

・　問３－１は現在の提案書の進捗状況を尋ねたものである。

・　「（１）バリアフリー教育の充実」「（２）多様な人が住まう「街」への気づき、障がい者理解の推進」については全体では「進んでいる」、「やや進んでいる」という回答の小計が５割～６割程度となっている。

|  |  |
| --- | --- |
| （１）バリアフリー教育の充実 | 進んでいる　　　　　７％やや進んでいる　　　57％（小計）　　　　　　64％※　変化はない　　　33％ |
| （２）多様な人が住まう「街」への気づき、障がい者理解の推進 | 進んでいる　　　　　７％やや進んでいる　　　46％（小計）　　　　　　53％※　変化はない　　　44％ |

・　「（３）安心して出かけられる「街」になっているか」との問いについては「進んでいる」、「やや進んでいる」という回答の小計が３割未満であり、前述の「（１）バリアフリー教育の充実」「（２）多様な人が住まう「街」への気づき、障がい者理解の推進」よりも低い。なお、（３）の質問の小項目の結果を見ると、「②駅舎、道路、公共交通機関等のバリアフリー化」、「④商業施設、福祉施設、学校等の多くの方が利用する施設のバリアフリー化について」については「進んでいる」、「やや進んでいる」という回答の小計が５割～７割であるのに比べ、「①マップなどのバリアフリー関連情報の充実について」については、「進んでいる」、「やや進んでいる」という回答の小計が２割程度と低い結果となっている。

|  |  |
| --- | --- |
| （３）安心して出かけられる「街」になっていると思うか。 | 進んでいる　　　　２％やや進んでいる　　22％（小計）　　　　　24％※　変化はない　　58％ |
| （３）①マップなどのバリアフリー関連情報の充実について | 進んでいる　　　　２％やや進んでいる　　18％（小計）　　　　　20％※　変化はない　　51％ |
| （３）②駅舎、道路、公共交通機関等のバリアフリー化の推進について | 進んでいる　　　　４％やや進んでいる　　48％（小計）　　　　　52％※　変化はない　　35％ |
| （３）③災害時を見据えたハード整備（分かりやすい案内板など）や、高齢者や障がい者等の要配慮者への災害時の支援体制の整備について | 進んでいる　　　　４％やや進んでいる　　33％（小計）　　　　　37％※　変化はない　　38％ |
| （３）④商業施設、福祉施設、学校等の多くの方が利用する施設のバリアフリー化について | 進んでいる　　　　４％やや進んでいる　　60％（小計）　　　　　64％※　変化はない　　27％ |

・　（４）では神奈川県みんなのバリアフリー街づくり条例を知っているか尋ねたが、「知っている」と答えた回答者は３割程度であった。

・　「（５）施設整備の際、障がい当事者の参加（意見の反映）」については、「やや進んでいる」「変化はない」「やや進んでいない」の回答がいずれも３割程度であった。

・　問３－２はこれからの取組みについて尋ねたものであるが、全ての項目について９割以上が「積極的に進めた方がよい」という回答であった。ただし、進める上での課題において、様々な障がいへの個々の対応の難しさ、財政上の問題等が挙げられた。

|  |  |
| --- | --- |
| （１）児童・生徒だけでなく、大人や地域の人にもバリアフリー教育を進めることについて | 積極的に進めた方がよい　98％現状で十分である　　　　０％その他　　　　　　　　　２％ |
| （２）建築や保健医療の専門家に、バリアフリーや障がい者等への理解を深めてもらうことについて | 積極的に進めた方がよい　98％現状で十分である　　　　２％その他　　　　　　　　　０％ |
| （３）地域での話し合いに障がい者が参加できる環境づくりを進めることについて | 積極的に進めた方がよい　93％現状で十分である　　　　７％その他　　　　　　　　　０％ |
| （４）視覚や聴覚など障がいに応じた情報保障（点字、拡大文字、見やすい配色、手話等）をさらに進めることについて | 積極的に進めた方がよい　95％現状で十分である　　　　５％その他　　　　　　　　　０％ |
| （５）高齢者や子育て世帯など様々な人に向けたバリアフリー情報をお互いに共有できるようにすることについて | 積極的に進めた方がよい　95％現状で十分である　　　　５％その他　　　　　　　　　０％ |
| （６）バリアフリー施設の優良事例や取組みを紹介したり、奨励するなど、バリアフリー社会への積極的な取組みをさらに一般に周知させることについて | 積極的に進めた方がよい　95％現状で十分である　　　　３％その他　　　　　　　　　３％ |
| （７）施設の計画段階から障がい当事者が参画するなど、施設のバリアフリー化に向けた取組みをさらに進めることについて | 積極的に進めた方がよい　98％現状で十分である　　　　０％その他　　　　　　　　　２％ |
| （８）様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うという「心のバリアフリー」の普及をさらに進めることについて | 積極的に進めた方がよい　98％現状で十分である　　　　３％その他　　　　　　　　　０％ |

４．その他「バリアフリーの街づくり」に対する意見

・　車椅子使用者の介護者に対する社会的、経済的配慮の必要性の意見。

・　市町村財政の厳しい中での民間、地域住民が参加した街づくりの必要性の意見。

・　神奈川県みんなのバリアフリー街づくり条例に対して、より実態に即したものへの改正の意見。

（意見の特徴）

○　課題や今後必要なものを尋ねるにあたり、各項目に自由記述欄を設けたが、どの項目においても普及啓発活動の必要性を挙げる意見が目立った。